

Q - Uでつかむクラスの実態 ～学級集団を理解するための校内研修～

夏休みの研修が分岐点！

学級集団を理解し、クラスの子どもたちの現在地をつかみ、それに合わせて指導内容や指導方法・到達目標を調整することで、2学期にやることが具体的に見えてきます。

学級づくりは、学校教育の基礎づくり

日本の学校教育活動は、学級集団を基本単位として行なわれます。したがって、学級集団の状態が学校教育の成果に大きな影響を与えています。つまり、集団がよい状況のとき（学級集団づくりがうまくいっている状態）には学習面も伸びますし、学級の状況が悪くなる（学級崩壊の状態）とうまくいかなくなるのです。そこで、不登校対策やいじめ・学力問題を解決するためには、学級集団づくりが大切になります。

また子ども個人の問題と思えることも、実は学級全体の状態と深く関連し、学級集団を理解することが、問題理解の手がかりとなることも多くあります。学級全体の課題はもちろん、個々の子どもの成長や問題解決にも学級集団を理解することは重要となります。



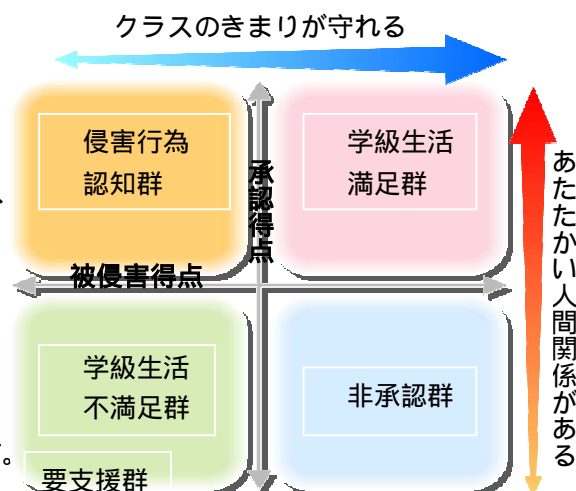
日常観察の情報と合わせた学級集団の理解

Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）は、標準化された質問紙調査ですので、信頼性と妥当性が確保されていて、尺度結果から得られる情報自体からも学級集団を理解をすることができます。

そしてQ-Uによる学級状態の理解は、実際の児童生徒の日常観察の様子から得られる情報と重ね合わせることにより、さらに精度をあげることができます。そのためにも、学年会や校内研修といった場で、より多くの先生方の目から見た多角的な情報があればあるほど、気づきも多くなります。

Q-Uの使い方

- 1 「学級満足度尺度」を集計・プロット図にして傾向を読み取ります。
 - 2 補助資料となる事例提供者の報告用紙(アセスメントシート)を記入し、記載事項をプロット図に書きこみます。
 - 3 プロット図で . . . に位置する子の「学級生活意欲尺度」や自由記述を読み取りましょう。
 - 4 学年会や校内研修で分析してみましょう。
- * 裏面にQ-Uを使った事例研究の流れを載せています。



研修をするときに大事にすること

教師の性格や個性に原因を求めない。
原因を組み合わせに求める(子どもの実態と教師のはたらきかけ)。
教師間のチームワークが何より大切!(Q-Uを突破口にチームワークを作る)
普通にできることをやりきる。
お互いに力量を付け、高め合う。



Q-Uを使った事例研究の流れ

<90分展開例>

事例の発表 <10分>

補助資料であるアセスメントシートをもとに学級の状態を発表する。
参加者はQ-Uのプロット図に印をつけたり、内容を書き込んだりする。
参加者は疑問点や確認したい点を事例提供者に質問をし、事例に関する情報を収集し、全体像を理解する。

理解を深める 小グループ(5~6人)での検討 <30分>

グループ内で司会・記録・発表などの役割分担を決めておく。
事例についてどうしてこういうことが起こったのかということを考える。
考えられる問題発生・維持の要因をできるだけ多く出し、全員で協議して、統一見解・仮説をまとめる。

対応策の検討 支援の方向性を検討する。 <30分>

具体的な行動レベルで、現実的に取り組める対応方法をできるだけ多く考える。
グループで話し合ったことを発表する。

講師等の助言 <15分>

決意表明 <5分>

事例提案者は今後やってみようと思うことなどを語る。
全員の拍手で終了する。

事例提供者の
意欲が高まり
元気になるよう
な研修を!

Q-Uを 活用するための 参考図書

「Q-Uによる学級経営スーパーバイズ・ガイド」

小学校編 - 中学校編 - 高等学校編 -

河村茂雄ほか編集 図書文化社

Q-Uの代表的な
プロットと対応策

「グループ体験によるタイプ別!学級育成プログラム」

小学校編 - 中学校編 - 河村茂雄編著 図書文化社

Q-Uとソーシャ
ルスキルとエンカ
ウンターの統合

「いま子どもたちに育てたい学級ソーシャルスキル」

小学校(低学年/中学年/高学年) - 中学校 -

河村茂雄 品田笑子 小野寺正巳編著 図書文化社

脱・小1プロブレム
脱・中1ギャップ
「満足型学級育成」の12か月

「Q-U式学級づくり」

小学校低学年 - 中学校 - 河村茂雄編 図書文化社

* Q-Uについては、「楽しい学級・学校づくりのために」2号・7号・
12号・14号・19号・20号・21号にも掲載しています。過去の「楽しい
学級・学校づくりのために」は、教育研究所のHPをご覧ください。

